推薦のことば

ダイアベティス（糖尿病）の治療・ケアは，チーム医療が基本です．そのチームには，医療者だけでなく，ダイアベティスのある方自身も対等なメンバーとして加わり，互いに情報を共有しながら，その方が望む治療目標と，そこに至るプロセスを一緒に考えることが大切です．

そんなチームの中に，専門的な知識と経験に加え，患者さんの生活状況や家庭環境，ニーズや嗜好を理解し，チームで共有すべき大切な情報を引き出してくれる人がいたら，どれほど心強いでしょうか．私にとって柳瀬昌樹先生は，まさにそんな存在です．

柳瀬先生と一緒に仕事をするようになって，10年ほどになります．私は週1回，外来診療を終えた後，柳瀬先生とともにダイアベティスのある入院患者さんを回診しています．薬剤選択について話すこともありますが，私たちの話題は，いつも「この方は何を望んでいらっしゃるのだろう」という問いに行き着きます．柳瀬先生が見つめているのは，薬や血糖値だけではありません．患者さんの人生そのものです．

本書にも，その姿勢が一貫して示されています．柳瀬先生は，「放っておいてください」という患者さんの言葉の奥にある思いや迷い，インスリンへの不安，治療費の負担，食べることをめぐる罪悪感を，単なる「アドヒアランス不良」として片づけず，丁寧に解きほぐしながら，その方が本当に望んでいることを明らかにしていきます．

本書は，薬剤師だけでなく，「正しいことを説明しているのに，なぜ患者さんに届かないのだろう」と感じたことのある，すべての医療者に読んでいただきたい一冊です．患者さんとの会話が少し変わり，その向こうに見える景色も，きっと変わるはずです．

2026年10月

国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院 内分泌代謝内科
田中永昭